

茨城論壇

豊田英雄の著作に『保育の栞』がある。近代日本初の実践的幼児教育論として注目されている。幸いなことに県立歴史館の高橋清賀子家寄託文書の中に英雄直筆稿本が現存しているので、この資料を中心に考えてみたい。

これまでに『保育の栞』は、倉橋惣三・新庄よし子による『日本幼稚園史』（1930年5月25日）に収録されたものが、初出であるように書かれているものもあるが、実は、これ以前に倉橋惣三は、雑誌『幼児の教育』（29年8月15日・同9月15日発行）に2回に分けて、ほぼ忠実に英雄の『保育の栞』を掲載している。しかしその後、倉橋惣三

茨城女子短期大名誉教授

小野 孝尚



初の実践的幼児教育論

は前記の『日本幼稚園史』に本文を掲載するに際し、表記や文言等に多少手を加えたり、本文を入れ替えたりして、本文を水戸の寓にお訪ねした時の活字本との本文校訂上違いが見いだされる部分が生じていた。この『保育の栞』は、

る。いずれも倉橋惣三の手により行われているものと思われ、倉橋は、無断では行わないであろう。英雄との了解の下での作業があったもの

おの・こうしょう 茨城女子短期大名誉教授 1944年生まれ。水戸市在住。大正大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。茨城女子短期大前学長。2017年「茨城の近代詩人群像」、19年「幼児教育・女子教育の先達 豊田英雄とその時代」を茨城新聞社から出版。茨城の文学研究をライフワークとし、豊田英雄の教育理念の次世代への継承と顕彰活動に努めている。

乞うて、こゝに本誌に紹介することを得るは、独り本誌の幸せであるばかりでなく、我々国幼稚園教育史に興味を有せらる、諸君の為に、極めて有益なる資料であると信ずる。」と書いている。そして

倉橋惣三は、『日本幼稚園史』の中でも、「保育の栞は、豊田英雄女史が、当時女子師範学校附属幼稚園在任中の折に書かれたもので、わが国最初の保育論の一つとして唯一の貴重な記録である。」として次のように章立てをしている。

「幼稚園 保育の資格 保育の注意 開誘の方法 保育の心得」（『幼児の教育』初

出では、章立てはしていない）と5章立てにしている。しかし、英雄直筆稿本では、「幼稚園 保育の資格 保育の注意 開誘の方法」と4章立てであり、本文上においても入れ替えた部分もある。

各章の概要について見ると、「幼稚園」では、はじめに、「幼稚園とは何ぞや」と読者に問いかける対話形式で導入し、答えとして「一つの楽しき園なり」と断言している。ここに集まる子どもたちは、草木が新芽を出そうとしているような3歳から6歳までの子どもたちで、柔らかな葉っぱのようなものであるから、知恵の起こり発生に注意しなければならない。この萌芽の時に障害をなした場合に、その子のそれからの発達を阻害するものであり、これは、生涯にわたるものである。

ので、健やかな身体と爽やかな精神を養いながら、その子の生まれつきの性質を傷付けないようにしなければならぬ。そして、心性を耕すことにおいて気を付けなければならないことは、二つの枝葉があることで、一つは、徳育であり、もう一つは、知育である。この二つの中で一つでも失ってしまうと、生まれつきの優れた才能を失ってしまうことになるので、保育や母親は、ここに注意をしなければならない。子どもの成長する様子を植物の生長に例えた表現となっている。これは、英雄の一貫しての教育理念となるもので、非認知能力の育成につながるものである。英雄がこのように幼児教育の核心を突いたことを早くから説かれて注目に値する。